
君へ

ira

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君へ

【Nコード】

N95870

【作者名】

i r a

【あらすじ】

いつかあなたも、体験するかもしれない切ないお話です。

*このお話は手紙のようになっています。

*会えなくなってしまった大好きな人にむけての手紙です。

ゝ私目線ゝ（前書き）

初めまして！

初めてお話を投稿しますi r aです。
まだまだ未熟者ですので、たくさん
駄目だし感想を受け付けております。
これから、よろしくお願いします。

く私目線く

君のちよつと高い声が好きでした。

君の大きな優しい手が好きでした。

君の温厚な性格が好きでした。

まだまだ言い切れないくらい好きなのところがたくさんあります。

けど、どれ一つとして伝えることができなかった。

もしあのとき、この気持ちを素直に君に伝えていたら何か変わっていたかな？

でももし、あのときにもどれたとしても、私はまた何も言えずに終わってしまうと思う。

だって君は・・・君にはもう心のなかで思っている人がいたから。

その思っている人と君は両思いだったりして

とても私が割り込みして、君をかつさらっていくことなんてできないと思っただから。

でも私はきずいていなかった。

君が本当に思っていた人が私だったというのに・・・。

本当にバカだよな。

君はあんなにも私に違うつていつてくれたのに。

温厚な君からは想像できないくらい、声を荒げて伝えてくれたのに、それは同情だつて勝手に思い込んで、たくさんたくさん君を傷つけて・・・。

ごめんね。

君を失って初めてきずいたよ。

こんなにも私の心は君におぼれていたっていうことに
好き、好き、大好きでたまらないよ。

こんなにも伝えたい思いはたくさんあるのに。
伝えたいのに。

おかしいね。

あの時にもどれても、絶対何もいえないのに、
今になったら伝えたくて、伝えたくてたまらないよ。
これが成長したって事なのかなあ？
だったらもっと早く成長したかったな。

バカで鈍くて、心が小さくてごめんね。
大好きだよ。

君へ - END -

く私目線く（後書き）

どうだったでしょうか？

感動していただけたら幸いです。

これから、続編も書いていくので、
どうかよろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9587o/>

君へ

2010年11月19日16時30分発行